

# 名工大が「工場長養成塾」

## 豊田自動織機 デンソー協力 中小製造業底上げ

名古屋工業大学（名古屋市中昭和区）は、豊田自動織機、デンソー・技研センターの協力を得て、9月から中堅・中小製造業の工場長クラスの人材を育成する「工場長養成塾」を開講する。中小企業の人材育成に産学が連携して取り組むことにより、中部地区に集積する製造業全体の底上げを図るのが狙い。

具体的には、名工大で「ゼミ」、デンソー技研センターの模擬ラインを活用した「演習」、受講生の製造現場を持ち回りで「教室」とする「実



豊田自動織機などの工場長経験者がモノづくりを指南する（写真は豊田自動織機の高浜工場）

名古屋工業大学 1949年創設。  
名古屋工業専門学校と愛知県立工業専門学校が統合して誕生した国立大学。工学部（第一部）、同（第二部）、大学院工学研究科で構成され、製造業が集積する中部地区においてモノづくりに従事する人材を輩出している。2005年には名古屋工業専門学校の前身である名古屋高等工業学校の創設から数えて100周年を迎えた。

践」などで構成。

なかでも、実践面では06年度に講座を開設したところ、16人（16社）などトヨタグループの工場長経験者が指導員となり、受講生が抱える課題を自らがクリアできるように指導していく。

期間は9月下旬から来年3月上旬まで5カ月間で、延べ23日間、153時間のカリキュラムを実践する。募集人数は24人（24社）。受講料は50万円。

経済産業省は2005年から2年間、製造現場の人材育成を目的にした「産学連携製造中核人材育成事業」を実施。

これを受け、名工大では06年度に講座を開設したところ、16人（16社）の応募に対して55人が応募するなど、予想以上の反響を集めた。

自動車、航空部品などの製造業が集積する中部地区は日本のモノづくりを担う重要エリア。

名工大では「経産省の事業は昨年度で終了したが、当地域では製造業を支える人材を継続的に育てていかなければならぬ」と判断し、独自に事業化することを決めた。

（総務部企画課・三田晴伸氏）と話している。